

思うように動けない立場になってみると、「こうだったらいいな」と思うことが身の回りにいろいろあります。未来の社会を築く子供たちに、「誰もが暮らしやすいまち」はどんなものか、心のバリアフリーについても考えてほしいと思います。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「見知らぬ人の親切に思う」

先日、両親を案内して東京スカイツリーに出かけてきました。普段は遠くに住んでいますが、用事があったて東京に来たのです。足を悪くしてなかなか歩けないのですが、一度スカイツリーを見てみたい、という希望をかなえるため、エレベーターやエスカレーターを探して、ゆっくり出かけました。

九小では、4年生が誰もが暮らしやすいまちづくりについて学習していますね。杖をつけて歩く速度に合わせて、電車の乗り換えで歩く距離がとても長く、階段が多く感じました。障がいのある方や高齢者の方が困らないように道や床の段差をなくしたり、ゆるやかな坂道を作ったりするバリアフリーが言われていますが、まだまだ不便なところがたくさんあると思いました。電車の中も混雑していましたが、途中で席を譲ってくれる方がいて、とてもありがたかったです。どうぞ、と声をかけてくれた方は、勇気のある優しい人だと思いました。

初めて見るスカイツリーを、両親はとても喜んでいました。思うように歩いたり動いたりできない人が外に出かけるには、エネルギーがいります。人は誰でも年をとりますが、今の日本は、世界の中でも高齢者の方の割合が多い超高齢社会であると言われています。

行きたいと思うところややってみたいことをあきらめなくてすむように、人に優しいまちづくりがもっと進み、困っている人に声をかけられる社会であってほしいと思います。皆さんも、こんなまちにできたらいいなと思うことを見つけてほしいと思います。

<感想>

- 1 誰か困っている人がいたら、高齢者や体が不自由な人だけではなく、いろいろな人に優しくできるようにしたい。また、手伝えることがあったら声をかけたいと思った。
- 2 電車やバスでお年寄りや小さな子供がいたら、席をゆずってあげようと思った。世界には、まだ不便な場所がたくさんあるから、スロープや手すりがあったらよいと思った。
- 3 心に残ったのは、人に優しく、ということです。理由は段差などが多いのに同感したからです。僕も人に優しくしようと思います。
- 4 スロープや平行なエスカレーターなど、いろいろと高齢者にとって便利になったこともあります。でも、まだまだ不便なことがたくさんあると思います。なので、自分たちでできることがあると思います。たとえば、スロープ、エスカレーター、エレベーターなどがなくて、荷物を持つなど工夫ができると思います。
- 5 心に残ったことは、バリアフリーのことで、なぜなら、けがや病気、障がいのある人が、どんなところに行っても困らない方がいいと思ったからです。僕は困っている人がいたら、席をゆずったりしたいと思います。
- 6 まだまだ不便なところがあると知って、自分はここでびっくりするほどたくさんのバリアフリーを見つけているのに、大変だなと思った。
- 7 私のおばあちゃんも足が悪く、それでも動物園に行きたいと言っていました。ゆずってくれる人がたくさん電車の中にいたので感謝しています。私もおばあちゃんみたいな人がいたら、席をゆずりたいと思います。
- 8 人に優しくするには勇気が必要だから、その勇気をもつ人になりたい。バリアフリーをもっと増やして住みやすい国にしたい。
- 9 4年生の頃に勉強したことを思い出しながら聞いていました。私は、電車の中で体の不自由な方に席をかわってあげる勇気があまりないので、私も頑張ってみようと思いました。
- 10 バリアフリーが増えて、体の一部に障がいがある人などが外に出ても楽になるようになればいいな、と思いました。私も電車で席をゆずったりしていきたいと思います。
- 11 暮らしやすい社会にするために、もっとたくさん行動しないといけないと思いました。体が不自由な人のためにも、もっといろいろな設備を取り入れることで、これからの高齢化社会をより暮らしやすくできると思います。また、人に思いやりをもった方がいいと思いました。